

インド哲学に於ける無知(無明, avidyā)の果報に関する一考察 ——シャンカラによる用例を中心として——

加 藤 龍 興

1. 序 「無知(無明, avidyā)」の概念の解明に関しては、仏教学への理解だけではなく、ヴェーダーンタ学派を始めとするインド哲学諸派に於いても、非常に重要な位置付けを担っていることは、誰もが異論のないことである。本論では、他ならぬ「無知(無明, avidyā)」の解釈学の一試論として、ヴェーダーンタ哲学の巨人シャンカラ(八世紀頃)による思想体系等を、より精緻な視点に基づいて検討してみたい。

当然、同様の先行研究は、故中村元博士や前田専学博士等の先学諸賢により、一定の研究成果として公にされている〔中村元著『シャンカラの思想』(岩波書店) pp.534-557, 前田専学著『ヴェーダーンタの哲学』(平楽寺書店) pp.234-255〕が、「複合語の解釈等を含め原語での一字一句を精細に考証した研究」という観点からは、未だ十分に研究し尽くされていないように看取される。それ故、本論では、この盲点を解明すべく、彼の主著である BSŚBh を主たる研究対象に据えて、論考を試みることにする。

さて、具体的な方法論としては、本稿では avidyā-kṛta という複合語表現に焦点を当て¹⁾、該当部分を BSŚBh から全てリストアップし用法を確かめる、という形で進めるが、対比のために、その後で BrUpŚBh 等の BSŚBh 以外の諸文献での用例も簡潔に参照していく²⁾。

2. BSŚBh に於ける関連表現の提示と内容確認

① avidyākṛtatvāt samsāritvasya |

輪廻者であることには、無明により作為されていることがあるからである。

[BSŚBh I-2-11, Cf. Mt3p.72, ll.20-21]

② ... avidyākṛtaṃ kāryaprapaṇcam ...

…無明により作為された結果としての現象界…

[BSŚBh I-3-1, Cf. Mt3p.94, l.20]

③ mātrābhis tv asya bhūtendriyalakṣanābhir avidyākṛtābhir asamsargo vidyayā bhavati |

(228) インド哲学に於ける無知（無明, avidyā）の果報に関する一考察（加 藤）

しかし、これ（アートマン）には、無明により作為されたところの元素や器官を特徴として持つ諸物体と、接触しないことが、明知により、生じる。

[BSŚBh I-4-22, Cf. Mt3p.172, l.26-p.173, l.1]

④ ataś cāvidyākṛto 'yam tapyatāpakabhāvo na pāramārthika ity abhyupagantavyam iti |
そして、こういう訳であるから、無明により作為されたこの所焼と能焼の関係は、勝義的なものではない、と、承認されねばならない、といえる。

[BSŚBh II-2-10, Cf. Mt3p.228, ll.10-11]

⑤ tasmād avidyākṛtaṁ kartṛtvam upādāya vidhiśāstraṁ pravartīṣyate | kartā vijñānātmā puruṣa ityevamjātiyakam api śāstraṁ anuvādarūpatvād yathāprāptam evāvidyākṛtaṁ kartṛtvam anuvadiṣyati |

故に、無明により作為された行為主体であることを認め、儀軌の教典が展開するだろう。「認識を本質として持つプルシャが行為主体である」〔*Praśnopaniṣad* IV-9〕というこの種の教典も同じく反復（anuvāda）を形相としていることがあるが故に、無明により作為された、他ならぬ到達されたとおりの行為主体であることを、繰り返す。

[BSŚBh II-3-40, Cf. Mt3p.293, l.23-p.294, l.1]

⑥ jīvasyāpy avidyākṛtanāmarūpanirvṛttadehendriyādyupādhyavivekabhramanimitta eva duḥkhābhimāno na tu pāramārthiko 'sti |

命我にとっても同じく、苦の是認は、無明により作為された名前と形相（名色, nāmarūpa）よりもたらされた身や器官等の制約を〔アートマンと〕識別しない妄想を動力因として持つに他ならないが、しかし、勝義的なものとしては、存在していない。

[BSŚBh II-3-46, Cf. Mt3p.299, ll.8-10]

⑦ ābhāsasya cāvidyākṛtatvāt tadāśrayasya saṁsārasyāvidyākṛtatvopapattir iti |

そして、影像には無明により作為されていることがあるからであり、それ（影像）を拠り所として持つ輪廻には無明により作為されていることの成立がある、と。

[BSŚBh II-3-50, Cf. Mt3p.302, ll.8-10]

⑧ ... āhosvid ekasmiṁś candre timirakṛtānekacandraprapaṇcavad avidyākṛto brahmaṇi nāmarūpaprapaṇco vidyayā pravilāpayitavya iti |

…はたまた、ティミラ〔眼病〕により作為された一つの月に於ける複数の月の現象であるかのように、ブラフマンに於いて、無明により作為された名前と形相（名色）による現象界が、明知により、溶解されねばならない、といえる。

インド哲学に於ける無知（無明，avidyā）の果報に関する一考察（加 藤） （229）

[BSŚBh III-2-21, Cf. Mt3p.361, 1.27-p.362, 1.1]

⑨ ... jīvatvaṃ tv avidyākṛtaṃ eveti ...

…しかし、命我であることは、無明により作為されているに他ならない、と、…

[BSŚBh III-2-21, Cf. Mt3p.362, 11.20-21]

⑩ ataś ca svābhāvikatvād abhedasyāvidyākṛtatvāc ca bhedasya ...

そして、これ故に、〔即ち、〕無差別には自性的なものであることがあるが故に、
且つ差別には無明により作為されたものであることがあるが故に、…

[BSŚBh III-2-26, Cf. Mt3p.367, 1.20]

⑪ tathā hy avidyākṛtatvād bandhasya vidyayā mokṣa upapadyate |

則ち、束縛には、無明により作為されていること（kṛtatva）があるが故に、明知によって、解脱が、成立する。

[BSŚBh III-2-29, Cf. Mt3p.368, 1.19]

⑫ evam avidyākṛtanāmarūpopādhyānuṛodhīśvaro bhavati,

このように、自在天は、無明により作為された名前と形相（名色）からの制約
によって追隨する者となる、

[BSŚBh II-1-14, Cf. Mt3p.201, 11.9-10]

⑬ api ca karmādhikārahetoh kriyākāraḥ kaphalalakṣanasya samastasya
prapañcasyāvidyākṛtasya vidyāsāmarthyāt svarūpopamardam āmananti —

そして、同じく、〔祭式〕行為の資格の因であり、行為と行為者と果を特徴と
して持ち、無明により作為されているところの、全ての現象界には、明知の力
能性にもとづいての、自質の破壊を、述べる。 —

[BSŚBh III-4-16, Cf. Mt3p.438, 11.20-21]

⑭ kiṃ punaḥ paraṃ brahma kim aparaṃ iti | ucyate | yatrāvidyākṛtanāmarūpādiviśe-
sapraṭiśedhād asthūlādiśabdair brahmopadiśyate tat paraṃ | ... | nanv evaṃ
advitīyaśrutir uparudhyeta | na | avidyākṛtanāmarūpopādhikatayā pariḥṛtatvāt |

【論敵の問】では、高位のブラフマンは何か、低位の〔ブラフマン〕は何か。

【シャンカラの答】〔以下のように説明が〕言われる。何であれ、そこに於いて
は、無明により作為された名前と形相（名色）等の特殊への否認にもとづき、「粗
大でなく」等の諸語により、ブラフマンが、教示されるところの、それという
ものが、高位なるものである。…。

【論敵の問】しかるに、このようにあるなら、不二の聖典（advitīyaśruti）が、妨
害されてしまうではないか。

(230) インド哲学に於ける無知（無明, avidyā）の果報に関する一考察（加 藤）

【シャンカラの答】いいえ、無明により作為された名前と形相（名色）からの制約を有していることにより，「既に」反駁されていることがあるからである。

[BSSBh IV-3-14, Cf. Mt3p.501, 1.27-p.502, 1.5]

以上①～⑭で示した当該箇所が BSSBh から拾い出され，⑥，⑧，⑫，⑭や，②，⑧，⑬，及び①，⑦等が，各々類似する用法として看取されるので，以下に纏めて検証したい。

まず，⑥，⑧，⑫，⑭は，「名前と形相（名色, nāmarūpa）」を直接的な（第一次的な）果報としている点で一致し，更に⑥，⑫，⑭（2番目）は，「制約（upādhi）」という語を含む点で合致する³⁾が，⑥の「名前と形相よりもたらされた身や器官等の制約（nāmarūpanirvṛttadehendriyādyupādhi）」が「名前と形相（名色, nāmarūpa）」と「制約（upādhi）」との関係を知る上での手掛かりとして重要視される。又，「名前と形相（名色）」という語を欠くが，「元素や器官を特徴として持つ諸物体」と注解する③も概念的には同類のものと解し得る。

次の②，⑧，⑬も，「現象界（prapañca）」を果とする点で共通性があり，例の「名前と形相（名色, nāmarūpa）」を含む⑧を「nāmarūpa による prapañca」と解す限りは，以上より，

原因 (cause)	第一次的果報 (first effect)	第二次的果報 (second effect)
(i) avidyā-kṛta	→ nāmarūpa (名色)	→ upādhi (制約)
(ii) avidyā-kṛta	→ nāmarūpa (名色)	→ prapañca (現象界)

という二種の構図（構造）が，彼が概念として有していた所謂「形而上学的な無明観」の一端として読み取ることが出来る。

一方，①，⑦は「輪廻の因たる影像」「輪廻」「輪廻者」の，⑪は「束縛」の因とされている点で，「解脱の対極にある概念」を表明していることが相似する。

また，④，⑩は，「所焼と能焼との関係（bhāva）」「区別（bheda）」というように，「二元的な概念」を想定している点で類似するように捉えられる。

そして，残りの⑤は「行為主体たること」，⑨は「命我たること」の要因とされている。

3. 他の著述での事例 BSSBh と酷似する用例を他の著述より示し列挙する。

(i) 【nāmarūpa, nāmarūpopādhi, upādhi】

... apūrṇasvarūpatām avidyākṛtām nāmarūpopādhisamparkajām ...

…無明により作為された名前と形相（名色）からの制約の混合より生まれたところの，満たされざる自質性を，…

インド哲学に於ける無知（無明，avidyā）の果報に関する一考察（加 藤） (231)

[BrUpŚBh V-1-1, Cf. Mt1p.951, 11.10-11]

... , tathā avidyākṛtanāmarūpād vimuktaḥ ...

…，同様に，無明により作為された名前と形相（名色）から，解放され，…

[MuUpŚBh III-2-8, Cf. Mt1p.174, 1.7]

avidyākṛtanāmarūpopādhikṛto hi viśeṣo 'bhyupagamyata ...

なぜなら，無明により作為された名前と形相（名色）からの制約により為された特殊が，理解され，…

[PrUpŚBh VI-3, Cf. Mt1p.136, 11.10-11]

etena avidyākṛtanāmarūpādyupādhikṛtānekaśaktisādhanakṛtabhedavattvāt brahmaṇaḥ⁴⁾ ...

これにより，ブラフマンには，無明により作為された名前と形相（名色）等の制約により為された単一ならざる能力の達成から為された区別を有することがあるから，…

[PrUpŚBh VI-3, Cf. Mt1p.137, 1.27]

... , avidyākṛtanāmarūpamāyāsvarūpeṇa ...

…，無明により作為された名前と形相（名色）のあるマヤー（幻影，māyā）の自質により，…

[MāUpKŚBh I-6, Cf. Mt1p.184, 1.10]

... 'vidyākṛtopādhibhedataḥ saṃsāritvam iva bhavati⁵⁾ , ...

…無明により作為された制約による区別があるが故に，あたかも輪廻者たるかのごときものとなる，…

[BhGŚBh XIII-2, Cf. Mt2p.191, 1.5]

(ii) 【prapañca】

dvaitaprapañcasyāvidyākṛtatvād ...

二元的な現象界には，無明により作為されていることがあるが故に，…

[MāUpŚBh I-1, Cf. Mt1p.177, 1.4]

(iii) 【saṃsāra】

... avidyākṛtaḥ saṃsāra ...

…無明により作為された輪廻，…

[BrUpŚBh I-1-1, Cf. Mt1p.609, 1.12, BhGŚBh XVIII-66, Cf. Mt2p.294, 1.4]

(iv) 【bheda】

... , avidyākṛtabhedāpekṣatvāt |

…，無明により作為された区別を想定していることがあるからである。

(232) インド哲学に於ける無知（無明, avidyā）の果報に関する一考察（加 藤）

[ChUpŚBh VII-24-1, Cf. Mt1p.562, l.11]

(v) 【kartṛtva】

... kartṛtvāder avidyākṛtatvam ...

…行為主体であること等には, 無明により作為されていることがある, …

[BhGŚBh II-21, Cf. Mt2p.20, l.17]

4. 結語 一連の検証によりシャンカラ特有の無明観の一端の詳細が文献学的に明らかになったと思惟する⁶⁾が、本論で試みた論考は既述の通り avidyā-kṛta の用例に限った範囲内での考察結果に止まる。故に、同様の研究を継続していく必要性を強調し、結びとする。

[略号等] BSŚBh:Brahmasūtraśāṅkarabhāṣya=Works of Śāṅkarācārya in original sanskrit vol.III Brahmasūtra with Śāṅkarabhāṣya Delhi, Motilal Banarasidass=Mt3. BrUpŚBh:Brhadāraṇyakopaniṣadśāṅkarabhāṣya, ChUpŚBh:Chāndogyopaniṣadśāṅkarabhāṣya, MuUpŚBh:Muṇḍakopaniṣadśāṅkarabhāṣya, PrUpŚBh:Praśnopaniṣadśāṅkarabhāṣya, MāUpŚBh:Māṇḍūkyopaniṣadśāṅkarabhāṣya, MāUpKŚBh:Māṇḍūkyopaniṣatkārikāśāṅkarabhāṣya =Works of Śāṅkarācārya in original sanskrit vol. I Ten Principal Upaniṣads with Śāṅkarabhāṣya Delhi, Motilal Banarasidass, 1992=Mt1. BhGŚBh:Bhagavadgītāśāṅkarabhāṣya=Works of Śāṅkarācārya in original sanskrit vol. II ŚrīmadBhagavadGītā with Śāṅkarabhāṣya Delhi, Motilal Banarasidass, 1988=Mt2.

1) 紙幅の都合上、本稿は BSŚBh での avidyā-kṛta の用例に限定した。 2) 因果関係が明白となるように と の二種類の下線を付す。 3) ⑭の1番目は avidyā-kṛtanāmarūpādiviśeṣa とある点で要注意。 4) 前項と関連するが avidyākṛtanāmarūpādyupādhi とあるため、nāmarūpa の果報ではなく nāmarūpa そのものが upādhi の一つとされている点に留意したい。 5) avidyākṛtopādhi とあるが nāmarūpa が間に省略されている可能性が推察され、saṃsāritva という語が見られる点、upādhi → bheda という図式にも注視したい。 6) BSŚBh と他の著作間での用法の一致が広範囲で確証され、特に鍵となる nāmarūpa, nāmarūpopādhi 等の表記が複数の著作で認められた点には、やはり留意する必要がある。

〈キーワード〉 Śāṅkara, avidyā, nāmarūpa, upādhi, prapañca

(愛知学院大学非常勤講師, 博士 (佛教學))